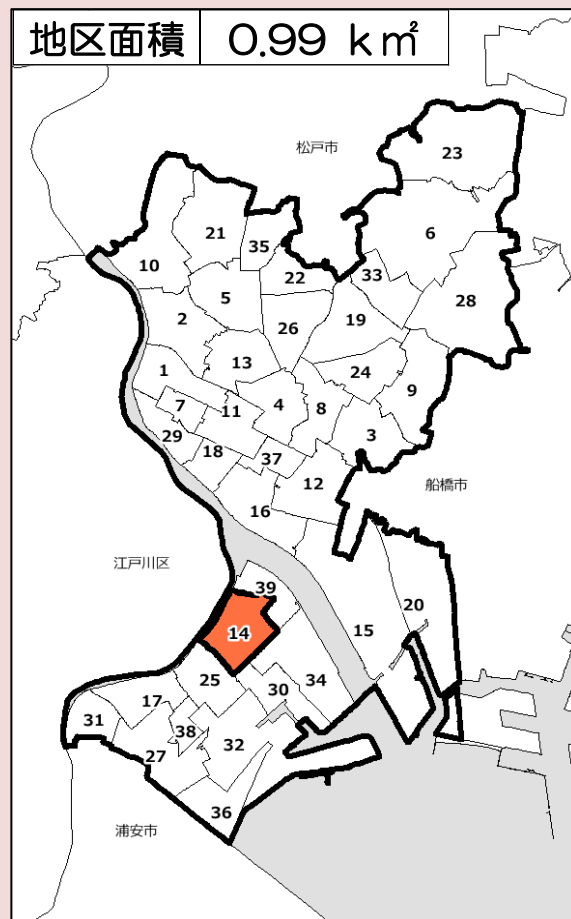


14 行徳小学校区

(1) 位置



(2) 地区概況

◆位置

行徳小学校は市の南部に位置し、地区の西側は旧江戸川に面しています。

◆地形・土地利用

地形は、氾濫平野及び低地の砂州・砂丘で構成されています。また、地区の北側は第一種中高層住居専用地域等の住宅地となっており、戸建て住宅やマンションが多く建ち並んでいます。地区の南側の妙典駅周辺は近隣商業地域となっており、大型ショッピングセンター等が隣接しています。

◆都市基盤

地区内の東西線沿線及び北側の一部は、土地区画整理事業により整備されています。地区内を南北にかけて県道6号線が通っています。また、地区の南側には東京メトロ東西線が通っており、妙典駅があります。地区内には、妙典駅から東京ベイ浦安市川医療センター行きの市川市コミュニティバスやJR新浦安駅行きの京成トランジットバスも通っています。

(3) 人口・建物概況

◆人口

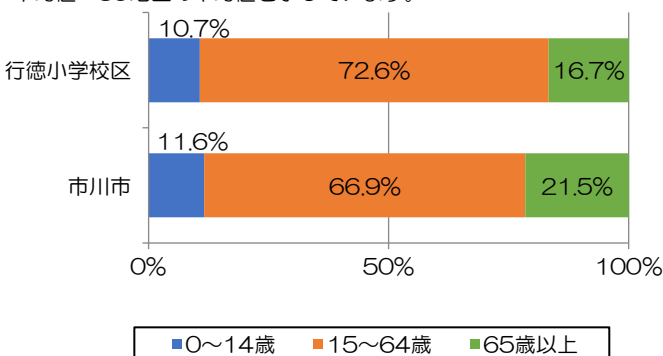
年齢別割合

	行徳小学校区	市川市	割合※
人口総数	20,200人	492,564人	4.1%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 12,630人

平均値：39地区の平均値を示しています。



地区の人口は、全地区の平均人口より多いです。市全体と比較すると15～64歳の割合が高く、現役世代が多い地区となっています。

◆建物

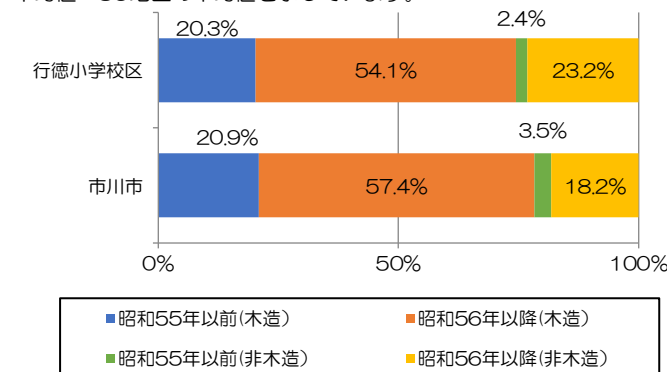
構造別割合

	行徳小学校区	市川市	割合※
建物総数	3,557 棟	107,267 棟	3.3%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 2,750棟

平均値：39地区の平均値を示しています。



地区の建物は平均より多いです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合がやや高いです。また、非木造建物がやや多い地区となっています。

(4) 災害リスク評価

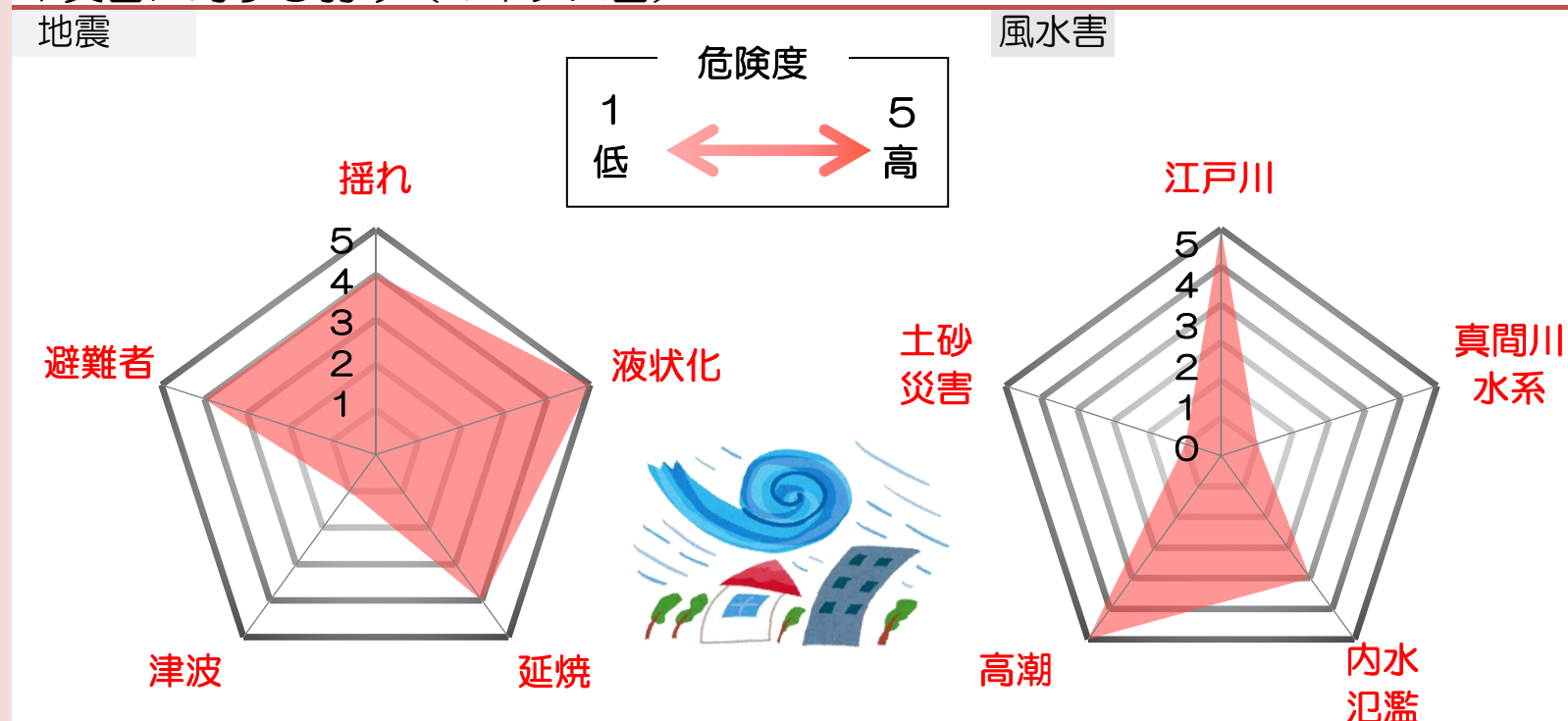
市川市防災カルテ

行徳小学校区

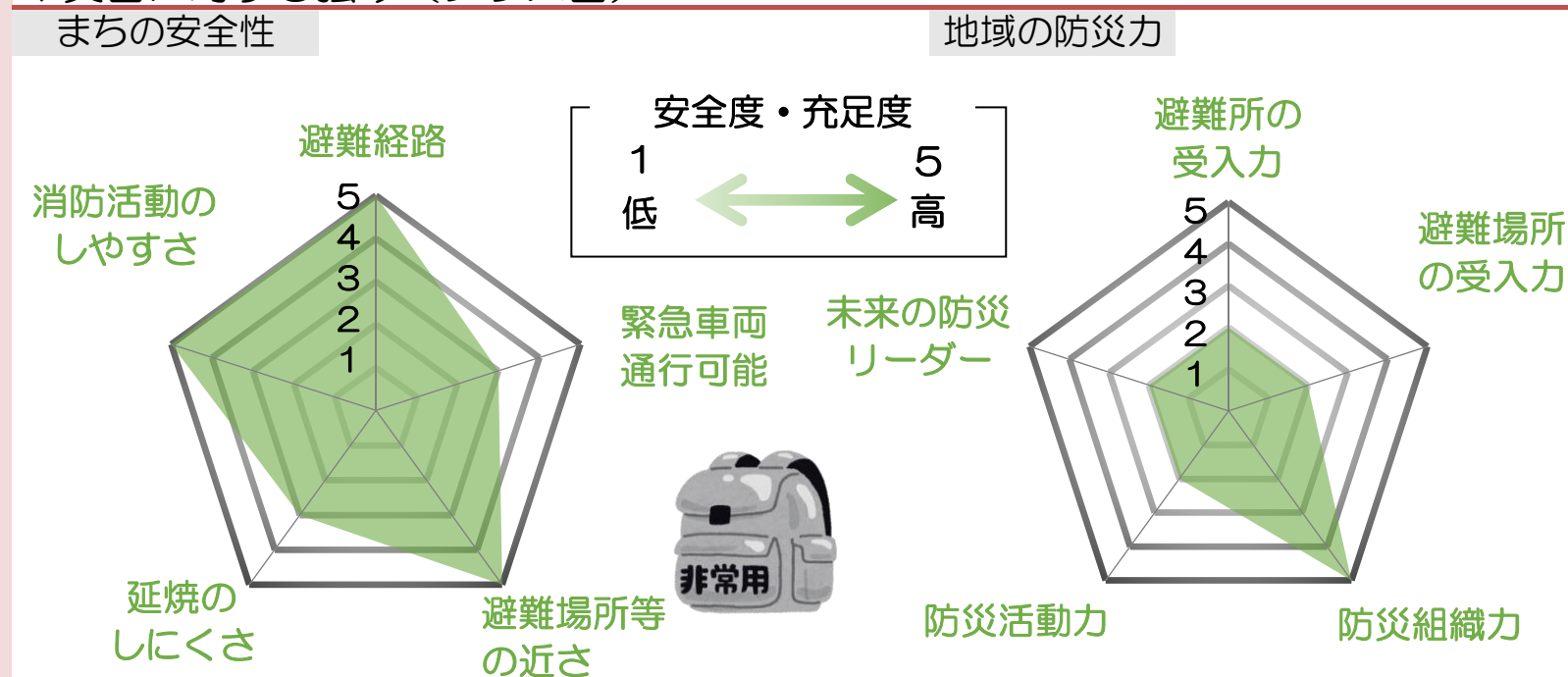


災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現況データを用いて相対的に評価しています。

◆災害に対する弱み（マイナス面）



◆災害に対する強み（プラス面）



◆評価

行徳小学校区は、地震災害については、全域で震度6強の揺れが予測され、揺れ、液状化、延焼による危険性が高く、避難者が多く発生する傾向にあります。風水害については、江戸川の氾濫による浸水の危険性が高く、高潮による浸水の危険性も高い傾向にあります。一方で、まちの安全性については、避難経路、避難場所等の近さ、消防活動のしやすさは高い傾向にあります。また、地域の防災力については、防災組織力は高い傾向にあるものの、避難所の受入力、避難場所の受入力、防災活動力、未来の防災リーダーは低い傾向にあります。

(5) 防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
行徳小学校	-		
第七中学校	-		
本行徳公民館	-		
行徳公民館	-		
身体障害者福祉センター	○		
行徳翔裕園	○		

◆避難場所

名称
行徳小学校
第七中学校
本行徳公民館
行徳中央公園

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設 (公設)	本行徳こども館		医療救護所	なし
	末広こども館		関連施設	なし



(6) 被害想定結果（地震・風水害）

◆地震災害（被害を受ける割合）

想定項目		行徳小学校区	市川市全体
建物被害	全壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	4.6%	4.8%
	半壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	13.6%	11.8%
	焼失棟数の割合	5.1%	10.2%
	浸水棟数（津波）の割合	0.0%	1.1%
人的被害	死者の割合	0.0%	0.1%
	負傷者の割合	0.3%	0.4%
	避難者の割合	19.6%	20.0%



◆風水害（被害を受ける割合）

想定項目		行徳小学校区	市川市全体
建物被害	浸水棟数（江戸川）の割合	99.8%	52.9%
	浸水棟数（真間川）の割合	0.0%	47.7%
	浸水棟数（内水）の割合	47.9%	57.9%
	浸水棟数（高潮）の割合	100.0%	64.9%



市全体の結果と比較すると、地震災害については、新耐震基準の建物割合がやや高く、非木造建物がやや多いため、焼失被害はやや少なくなっています。また、人的被害については、市全体と比べて死傷者はやや少なく、避難者は同程度となっています。

一方で、風水害については、江戸川の氾濫による影響が大きく、高潮による浸水の影響も受け、市全体と比較して江戸川、高潮の浸水棟数は多くなっています。

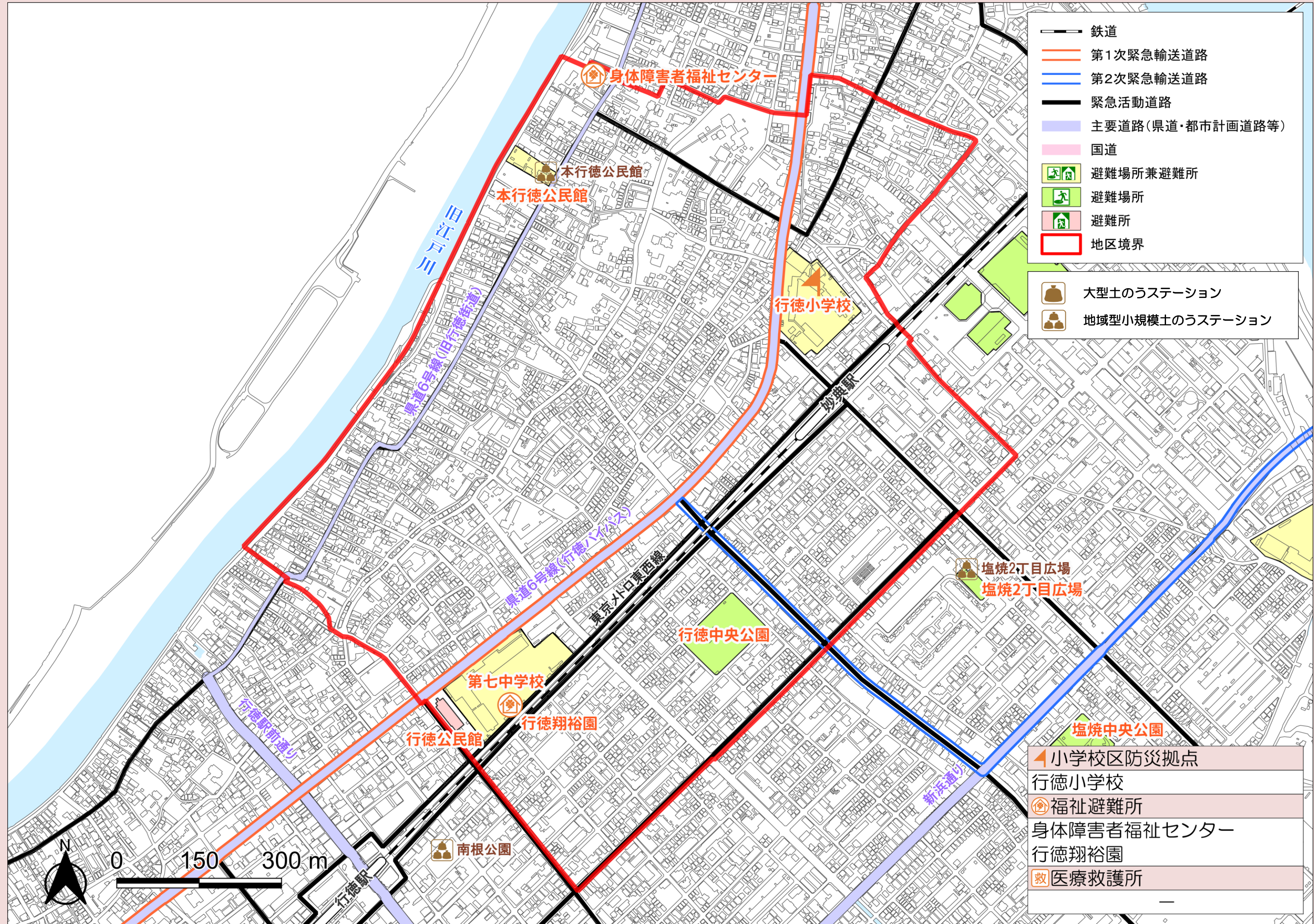
(7) 防災上の課題

項目	課題
地震	地区全域において、震度6強の揺れが予測され、液状化による危険性が非常に高く、延焼による危険性も高いことから、耐震対策や延焼対策、初期消火対策、ライフライン途絶に備えた家庭での備蓄対策等が重要です。
風水害	河川氾濫による浸水被害や内水氾濫の恐れがあり、また、高潮による浸水の恐れがあることから、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。
まちの安全性	地区のまちの安全性に関する評価項目は総じて高い傾向を示していますが、狭い道路がやや多いことから、緊急車両が通行可能な道路が重要です。
地域の防災力	地区では、避難所の充足度が低いことから、災害発生時は避難所が混雑する可能性があり、在宅避難ができるよう自宅の備えを整えることが重要です。また、避難場所の充足度が低いことから、他の避難場所や広域避難場所の確認が重要です。さらに、防災活動力が低いことから、災害発生時に即座に対応できるよう、初期対応や応急復旧活動に対する対策を行うとともに、未来の防災リーダーとなる人材育成を進めていくことが重要です。

(8) 防災対策の方向性

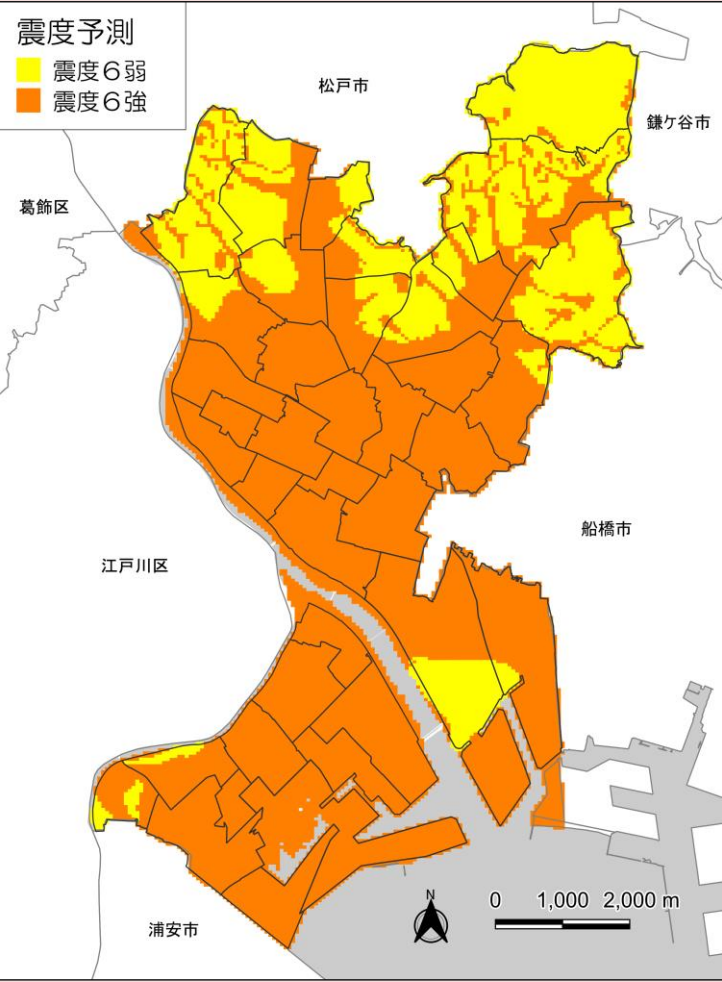
項目	取組の方向性
地域の取組	災害時に負傷者や火災が発生した場合、即座に応急手当や初期消火ができるように、高い防災組織力を活かし、地域で初期対応の訓練を実施するなどの対策が効果的です。 市が開催する防災セミナーやイベント等に参加する等、地域ぐるみで防災リーダー等を育成していくことが必要です。 地区内の避難場所の受入力が低いため、近隣地区も含め避難場所を確認し、あらかじめ地区の中で避難する場所の情報共有を行うことが重要です。
個人の取組	地震に対する備えとしては、市の助成制度である「耐震改修助成制度」を利用した耐震改修工事による自宅の耐震化対策や、「あんしん住宅助成」を利用した感震ブレーカーの設置を進めるとともに、家具の固定など自宅（家庭）の防災性を向上させることが効果的です。 一方、風水害に対する備えとしては、同じく「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置や、土のうステーション等を活用した浸水対策とともに、いざという時円滑に避難できるよう、市からの情報収集方法や浸水想定区域外の避難場所等をあらかじめ水害ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。

(9) 防災マップ



(10) 基礎資料

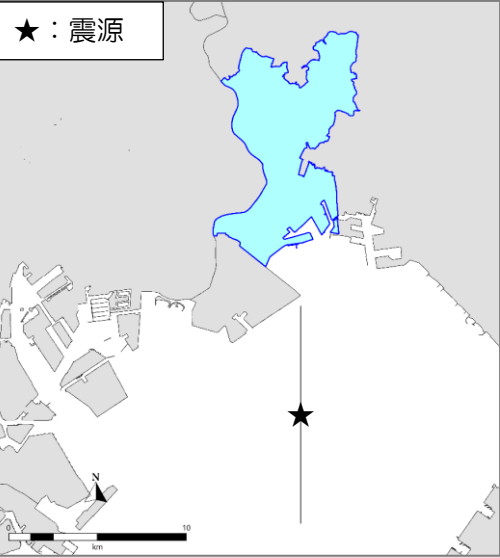
①市全域の震度分布図



本カルテには、東京湾直下を震源域とする地震が発生した場合の結果です。
震度分布図を見ると、市の南部を中心に広く震度6強と予測されています。

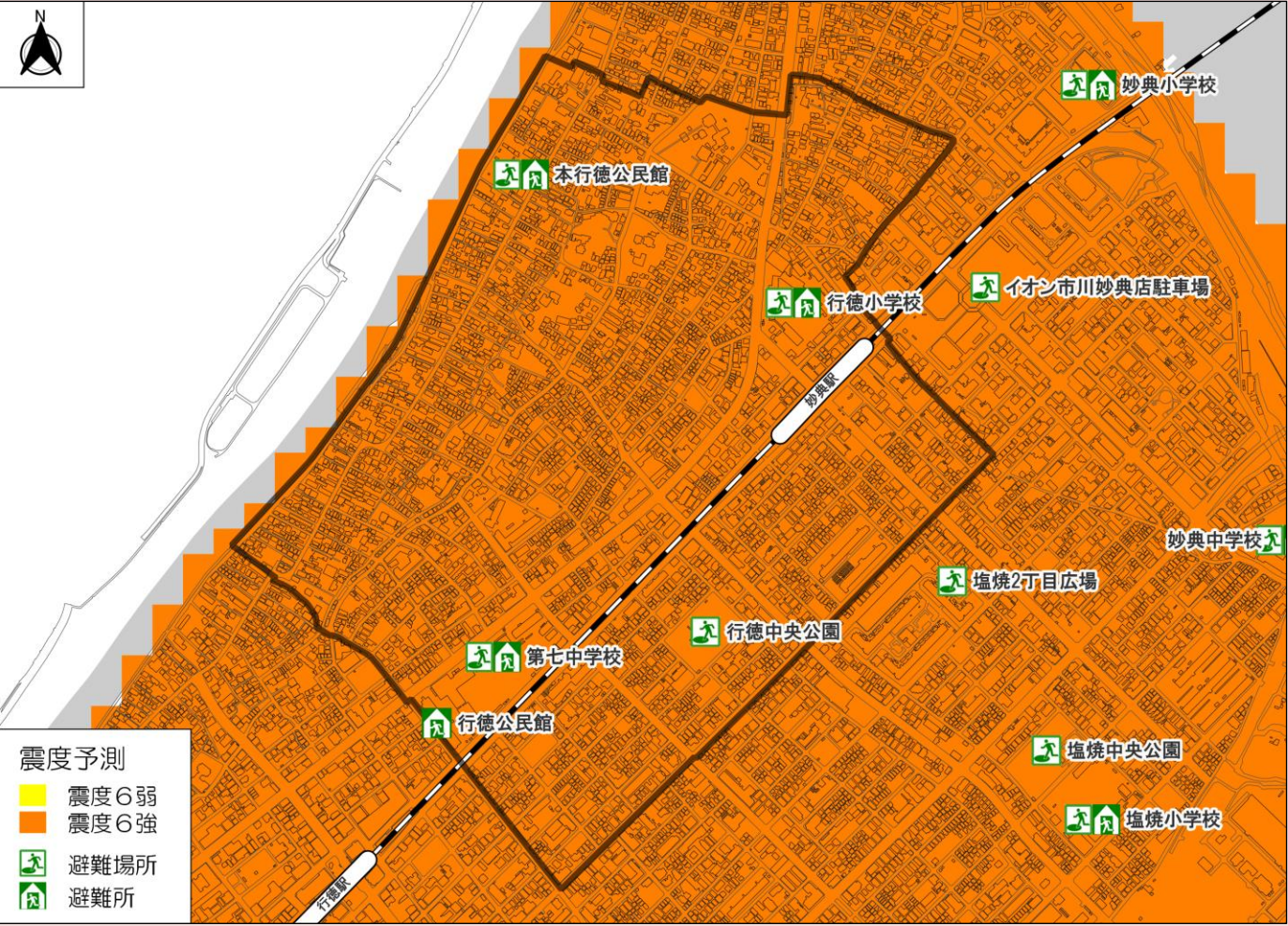
想定地震	東京湾直下地震
マグニチュード	7.3 (震源深さ：48km程度)

▼震源

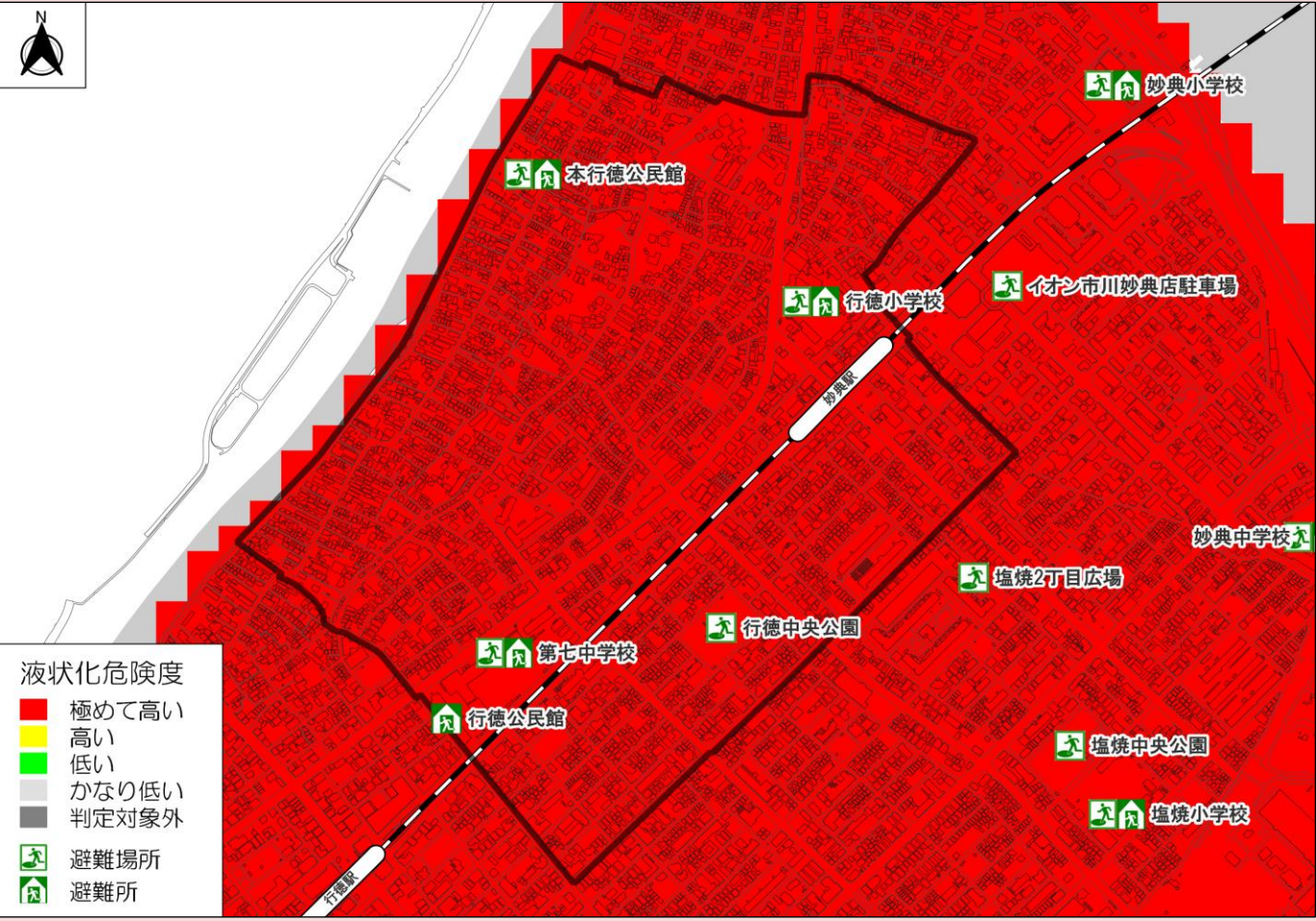


※本結果は市川市地震被害想定結果（令和5年度）に基づいています。

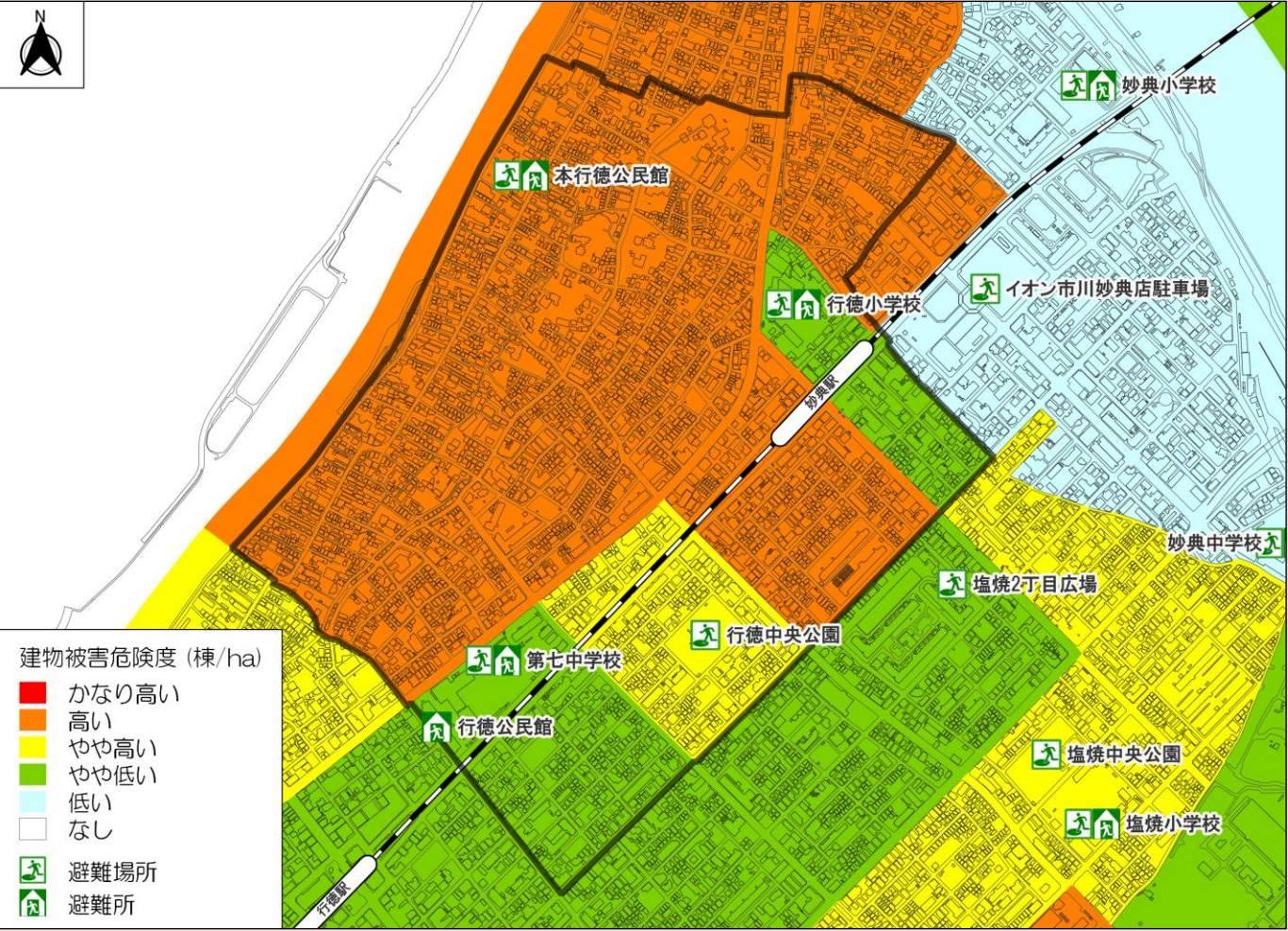
②震度分布図



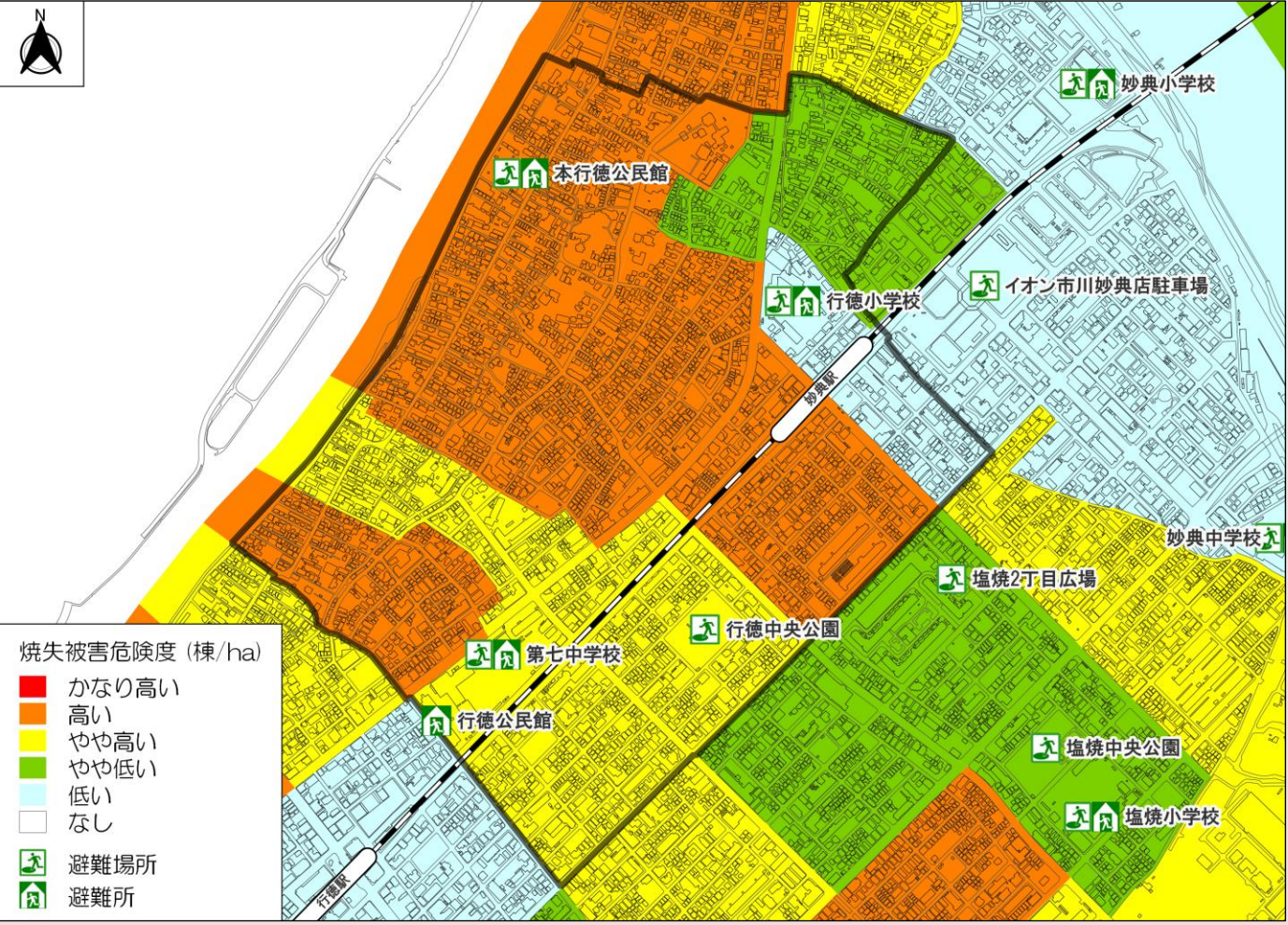
③液状化危険度



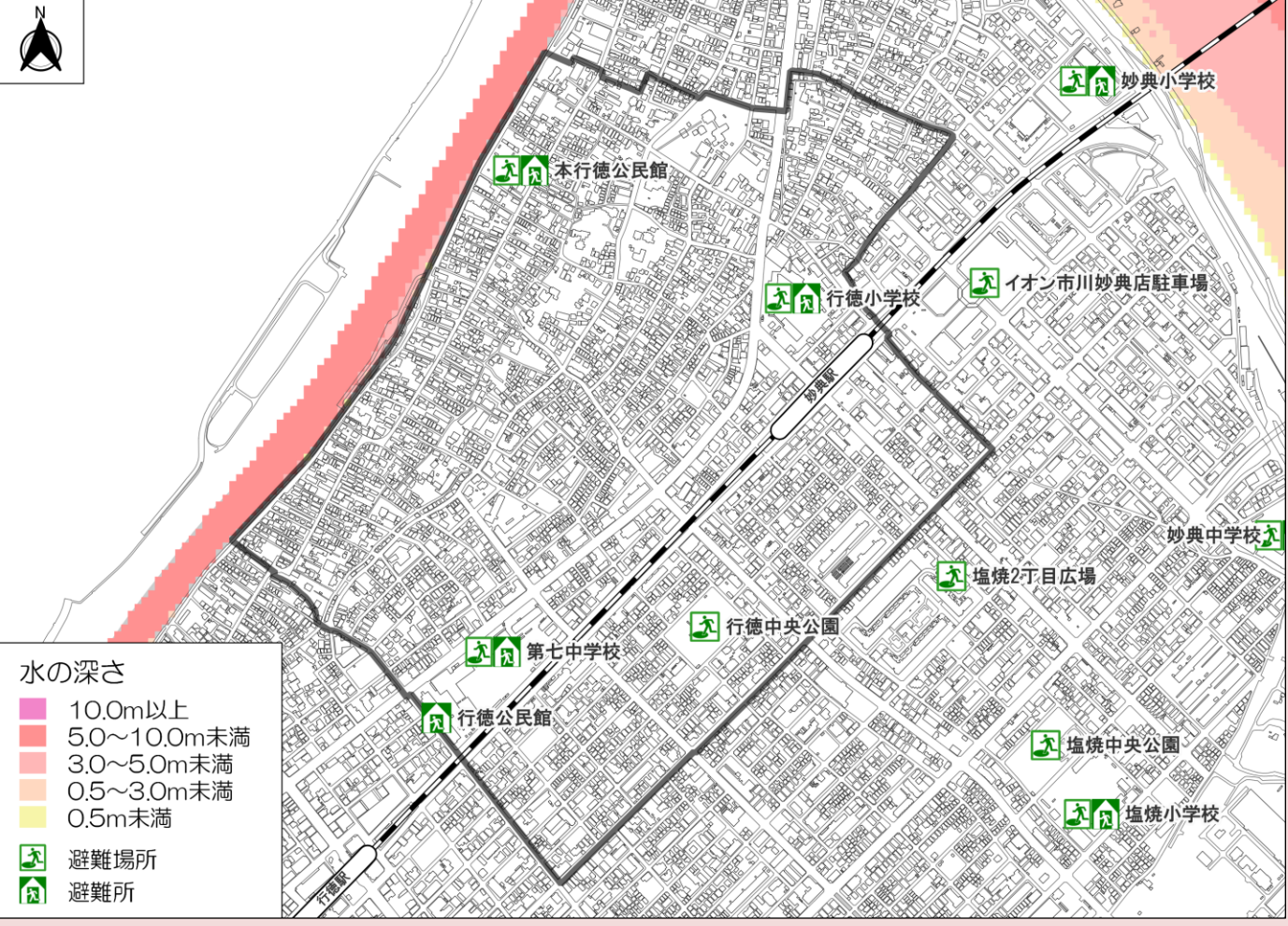
④建物被害（揺れ・液状化による被害）



⑤建物被害（延焼による被害）



⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

平成24年4月：千葉県

⑦浸水想定概要

江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。

災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ浸水想定区域外の避難所及び避難場所について確認しましょう。

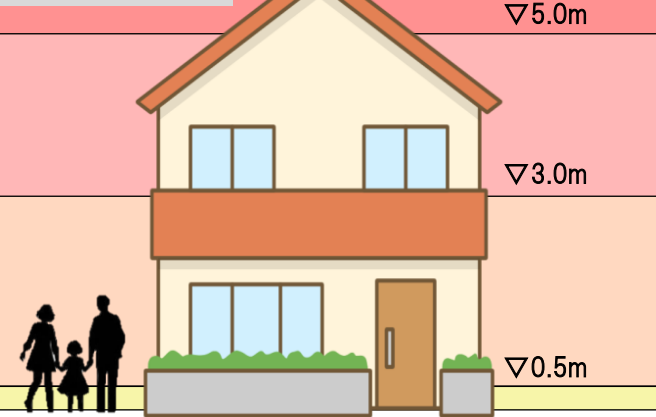
また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。

避難にあたっては、市指定の避難所にこだわらず、浸水しない地域の知人宅、職場などに避難することも有効です。

水の深さ

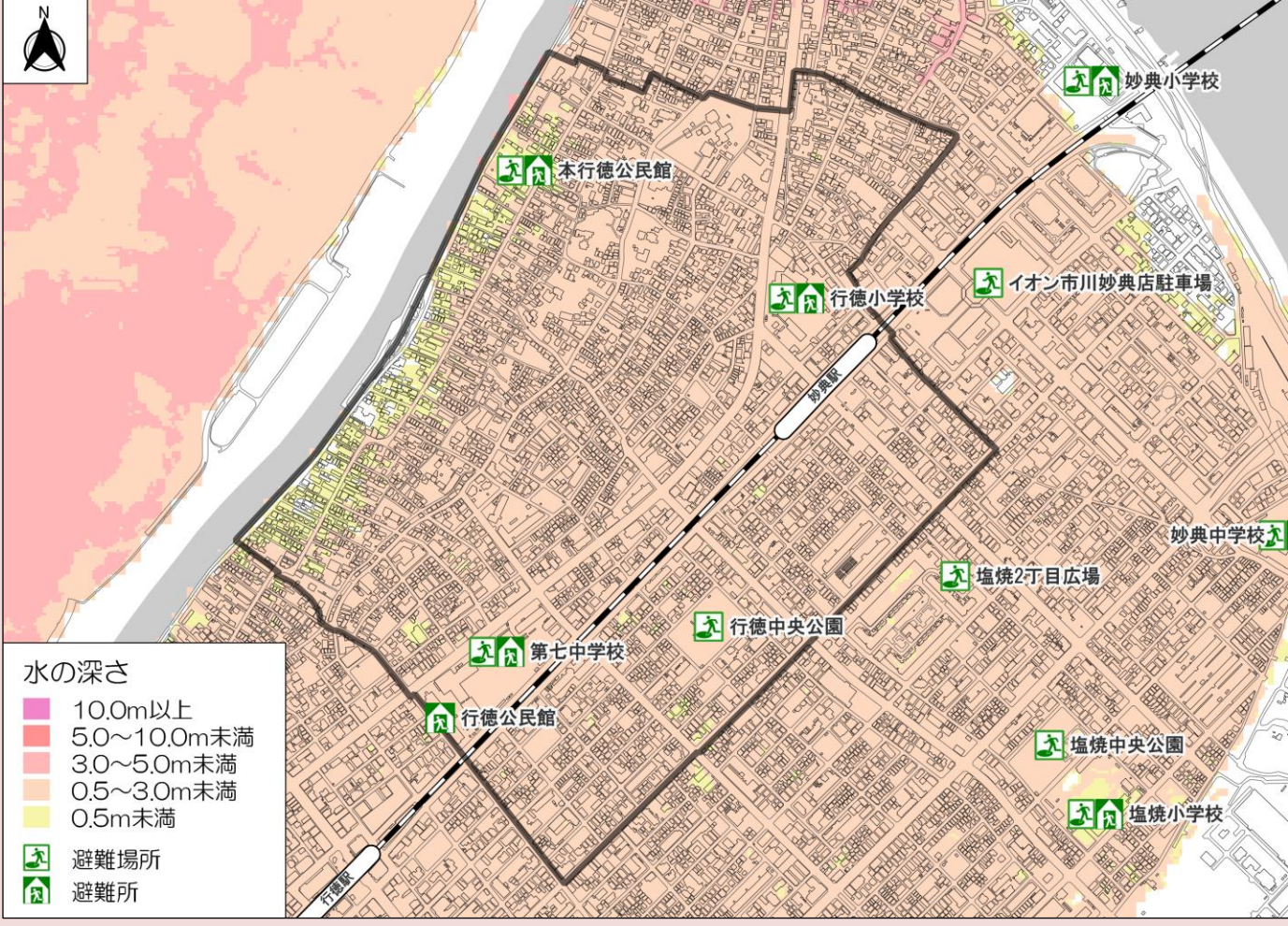
- 水の深さが5.0m以上
- 水の深さが3.0~5.0m未満
- 水の深さが0.5~3.0m未満
- 水の深さが0.5m未満

浸水の目安



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

⑧洪水（江戸川）



平成29年7月：国土交通省

